

第 32 回 電磁環境技術委員会議事録

日 時：平成 19 年 4 月 18 日（水）10:00～12:00

場 所：社団法人電気学会 第 3 会議室

出席者：河崎委員長（阪大），福永（NICT），富田（電中研），田村（関電）各 1 号委員，藤原（名工大），瀬戸（NICT）各 2 号委員，関口（NICT），作左部（拓殖大，徳田代理）水野幹事（名工大），舟木幹事（京大）

	提出資料：
第 32 回電磁環境技術委員会 予定	舟木
第 31 回電磁環境技術委員会議事録（案）	舟木
EMC32-1 委員名簿	水野
EMC32-2 平成 18 年度研究会活動補助金会計報告	舟木
EMC32-3 第 70 回基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会議事録	河崎
EMC32-4 情報・通信・電力基盤における雷害リスクマネジメントと協調委員会活動方針および報告書	活動方針および舟木
EMC32-5 電磁界観測による地震予知システムの構築調査専門委員会設置趣意書案	堀井(水野)
EMC31-6 電気電子機器のノイズイミュニティ調査専門委員会設置趣意書案	徳田 (作左部)

議事要旨：(以下発言委員名については敬称略)

1. 委員長の挨拶(河崎)
任期は残り一年となったが，ご協力お願いします。
2. 委員の異動報告(舟木)
 - 奥村委員 任期満了退任。
 - 徳田委員 調査専門委員会解散のため退任。
 - 瀬戸委員 調査専門委員会設置のため就任。
3. 第 31 回電磁環境技術委員会議事録の確認(舟木)
舟木幹事より提出された第 31 回電磁環境技術委員会議事録の確認が行なわれ、承認された。
4. 委員会名簿の確認。
 - 富田委員 所属組織の場所替えのため，Fax が変更になります。
5. EMC32-2 にもとづき平成 18 年度研究会活動補助金(17000 円)を，電磁環境技術委員会ホームページ整備のための日当に使用した旨報告があった。
6. EMC32-3 の第 71 回基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会議事録にもとづいて，運営委員会の報告を行った。
 - 電磁波・情報セキュリティ技術調査専門委員会について，会員比率についてのクレームが運営委員会であった。新しい分野であるので，発足時にこれぐらいの会員比率でも仕方ない旨回答すると，それに対する意見は出なかった。ただし，今後会員比率を上げていく必要はある。(河崎)

- 電気安全関連に用途を限定した寄付金があり，調査専門委員会の設置を電磁環境技術委員会に伺いが来た。(河崎)
 - これは，粉塵爆発等を対象としているのか？(藤原)
 - 感電防止とかではないか？(福永)
 - 建築物の接地電位に関する安全性の問題も解決していない。(瀬戸)
 - 学生に配る電気の安全のしおりみたいなものを作ればよいのでないか？各大学ではどのようなものを配布しているか？(河崎)
 - 電力会社や電気保安協会を巻き込んで，啓蒙活動の一部として調査委員会活動を依頼してみてもどうか？(富田)
 - 電力会社，電気保安協会ならば，担当はB部門である。B部門の方が適当であるから，親委員会の方からB部門の方に回してもらおうということにする。電磁環境技術委員会は，もっと学術的な問題を扱うと回答する。(河崎)
 - 高速電力線通信システムと EMC 委員会の報告書の単行本について，電気学会として出版する方向に進みつつある。ただし，結論はまだ出ていない。次期委員会も単行本にしますか？(河崎)
 - そのように伺っている。(作左部)
 - 電磁波・情報セキュリティ技術調査専門委員会も単行本化を目指してほしい。(河崎)
 - 売れそうなので，ぜひそうしてほしい。(福永)
7. 平成 19 年度電気学会 A 部門大会について
- テーマ付セッションの応募が出てこない。現状では電磁環境技術委員会から出しているもののみ。(河崎)
 - A 部門大会については，いつも議論になる点である。各技術委員会は，すでに各々でシンポジウムを持っているため，さらに A 部門大会に出すというのは非常に無理がある。
 - ある技術委員会は，国際会議とぶつかっていて，全くだめといていた。また，ISHとも重なっている(河崎)
 - A 部門大会をやめにしようといっていたら，阪大に回ってきた。(河崎)
8. EMC32-4 にもとづき情報・通信・電力基盤における雷害リスクマネジメントと協調委員会の平成 18 年度の活動報告があった。
- ほかの委員会も提出されていますね？(河崎)
 - すでに出している。(藤原)
 - 電磁波・情報セキュリティ技術調査専門委員会も，来年 3 月には平成 19 年度分を出すことになるので，心積もりしておいてください。(河崎)
9. EMC32-5 にもとづき，電磁界観測による地震予知システムの構築調査専門委員会設置趣意書案について説明があった。(水野)
- これは，電磁界観測による地震予知技術調査専門委員会の継続委員会である。(水野)
 - 調査専門委員会には，副委員長と言う役職は無いので，非公式に畑先生を副委員長とする。電気学会には，委員として報告する。(水野)
 - 幹事は，電中研黒野氏が辞退されたので，東電または電中研で調整中。(水野)
 - ご意見は？(河崎)

- 堀井先生が、委員長 10 年というのは非常に長いですね。ライフワークですね。(藤原)
 - 服部先生が電磁界理論技術委員会でやっている委員会との差異は？
 - 地電流はやっていない。システム構築というのも違うようだ。(藤原)
 - システム構築というのは、調査専門委員会としての性格にそぐわない。(福永)
 - 堀井先生は、科研費に応募し、システム構築までやろうとはしている。(河崎)
 - 地震予知関係は、国から大量に資金投入されているが、貢献しているのか？(藤原)
 - 電気系の地震予知は、国の資金はもらっていない。地球物理学は沢山もらっているようだ。ただし、彼らの根ざしている理屈である力学では、予知はできないとっている。逆に、電磁界で予知しようとしている早川先生あたりは、できると言っている。本件は、堀井先生のライフワークとしてやっていただくか？(河崎)
 - 文章修正だけにして、中身はあまりいじらないということか？(富田)
 - 違う技術委員会にある調査専門委員会と、協力して活動を進めていただければ新しい試みとなるので、期待する。(福永)
 - 服部先生の委員会ともう少しカップリングして活動していただければよいと思う。(河崎)
 - 堀井先生の所属は大同工大でよいのか？水野先生確認よろしく。(藤原)
 - では、やるという方向でいきます。委員のリストを整備してください。(河崎)
 - 「地電流・電磁界観測」の方がよい。(藤原)
 - 目的にある「システムを構築することである。」を削除するべき。(福永)
 - 次回の技術委員会で、修正案を提出していただいた上で、運営委員会に諮るとということにします。水野先生、堀井先生にその旨ご連絡よろしくお願いたします。(河崎)
10. EMC32-6 にもとづき、電気電子機器のノイズイミュニティ調査専門委員会設置趣意書案について説明があった。(作左部)
- 高速電力線通信システムと EMC 委員会の継続委員会。(河崎)
 - 報告書は、設置趣意書にあるとおり、現在コロナ社から出ている本の改訂版に相当。(作左部)
 - ぜひとも電気学会での単行本出版をお願いします。(福永)
 - 前の本は、発行は平成 14 年であるが、準備は平成 6 年からなので、内容的にはかなり古い。(作左部)
 - C 部門にある委員会との関係はどうなっているのか？クリアにしていただかないと、同じ委員会が二つあっても困る。また、目的で述べられている JIS 化されているのに不明な点があるとは、具合がよくない。(富田)
 - 誤差、偏差にたいして、最近不確かさというような用語が用いられるようになったのもひとつの要因です。(作左部)
 - 新しい概念が導入されているといった表現にしてほしい。整理されていないというのでは、それまでは何をやってきたのかということになり、表現上よろしくない。また、目的の文章が非常に長く、何が言いたいのかわからない。(富田)
 - 趣意書八行目の高密度化は、むしろ影響を受けないのではないか？(瀬戸)
 - 目的の文章を大幅カットしてください。C 部門ではどういったことをしていたのか？(藤原)
 - 事例と対策。出所がわからないようにして、実態や試験技術などについて調査していた

- (富田)
 - この委員会は、それと同じ線にならないか？(藤原)
 - C 部門はやめたかもしれない。それならば、全く問題ない。(富田)
 - 取り急ぎ、C 部門の委員会との関係を調べるように。関係を整理し、問題を取り除いた上で、次回の本技術委員会に再提出、その後親委員会に提出、承認、9月発足としたい。(河崎)
 - 不確かさ等の、新しい概念のキーワードを並べてください。(富田)
- 1 1. 電磁波・情報セキュリティ技術調査専門委員会活動予定(瀬戸)
- 調査内容としては、1.ニーズ、実態調査 2.用語 3.関連規格 4.脅威分析 5.対処方法、を考えている。1-3については、この一年でとりあえず調査する。4,5については、その後に実施。ただし用語の検討は、かなり時間を要すると考える。しかしながら、この委員会でないと他ではどこやっていないので、やる意義は大きい。(瀬戸)
 - 平成 20 年 3 月の全国大会(3/19-21 福岡工大)シンポジウム題材にすることになった。(河崎)
 - 全国大会シンポジウムの提案書提出はかなり早い時期なので、準備を早めをお願いします。(福永)
- 1 2. 不均一及び過渡的な電磁界による体内誘導量評価技術調査専門委員会活動報告と予定(藤原)
- 平成 17 年発足、委員会年四回、幹事会一回、研究会一回を実施している。最後は、報告書をまとめる予定。これまで、調査専門委員会を 3 回実施。三回目は 3/9。幹事会は 12 月中旬に実施した。4 回目は 6/11or15 に金沢で実施予定。8 月の A 部門大会に、テーマ付セッション応募する。5 回目の委員会は 9 月の予定。11/15,16 に研究会を信学会 EMCJ と共催。12 月に幹事会予定。(藤原)
- 1 3. その他
- 2009/4 に EMC 京都実施予定。本技術委員会も共催。(藤原)
 - 手続き方よろしく。(福永)
 - 参加費が高い。なんとかならないか。アジア各国にまけるぞ。(河崎)
 - 嶺岸先生、ESD の調査専門委員会設立のために活動中。目下人選中。趣意書を書き始めている。(藤原)
 - できたら、次回技術委員会に提出よろしく。(河崎)
 - 高速電力線通信システムと EMC 委員会の単行本ができたら、フォーラムで講習会をやっていただくことになりますので、よろしくをお願いします。(河崎)
 - 4 月 EBEA2(European Bioelectromagnetics Association) , 6 月金沢 BEMS(Bioelectromagnetics) , 7 月 IEEE EMC Honolulu(EMC-Society の 50 周年) , 9 月 EMC Zurich(ミュンヘン) , 10 月 International China Symposium on EMC (EMC'2007/Qingdao)。(藤原)
 - 情報セキュリティの会議が、BEMS と重なっている。(福永)
- 1 4. 次回は、平成 19 年 7 月末～8 月を予定。5/11 の親委員会で決まる日程に応じて、決定。委細は後日連絡。

以上